

## 2 追放劇の始まり

2012年12月16日、豪雪の中の選挙が終わり、それから5日目の夕方、松浦大悟議員たちによる、追い出し作戦が始まりました。

東京都の倍以上もある秋田3区を朝から晩まで這いずりまわった選挙活動で、私の心身はボロボロ。

しかし、落選は覚悟の上でしたから、「さあ、これからだ」と自らを鼓舞し、記者会見で秋田での政治活動継続を表明しました。

衆院選後、秋田3区代表の私は、選対会議を開くべきだと考えました。日時・場所を決めたいと思って、選対の総括責任者・松浦大悟議員や本部長・小原正晃県議の携帯に何度か電話をしました。しかし応答はありません。電話に出ないということは、今にして思えば、この時すでに私を秋田から追い出す策が動き出していたのでしょう。

私は、「12月22日党本部が招集する会があり、上京します。わが選対の結果報告・反省の会はいつにしましょうか」と、小原県議の携帯にメールを出しました。

### 呼び鈴も押さずに

12月21日、事務員（秘書Bが連れてきたアルバイト職員）も帰宅した夕方暗くなった頃です。私は横手市郊外にある自宅兼事務所に1人でいて、支援者からさみだれ式にかかってくる電話に対応していました。

松浦ファミリーの5人（松浦大悟議員本人、小原正晃県議、松浦議員の秘書A、公設秘書B、公設秘書C）は、呼び鈴も押さず、「今晚は」もなく、玄関をあけて上がり込んで、事務室の扉をあけて室内に入り、会議机を囲むように立っていました。

私は、電話を終える頃にはじめて、5人の気配に気づきました。

このようにリアルに書くことができるのは、松浦議員らを提訴して2年ほどして、この場面を隠しどりした録音CDと反訳（テープ起こし原稿）が、松浦

議員側から裁判所に提出されて証拠として採用されたからです。

5人のうちの誰かが、隠しどりするためのICテープレコーダーを洋服のポケットにでも忍ばせていたのだと考えられます。玄関に入る前からレコーダーは、オンにされていました。

松浦議員の、「電話中か」という第一声も入っています。

この日のやり取りは、あまりはっきり覚えていなかったのですが、松浦被告側が出した録音と反訳のおかげで、5人は、言葉使いこそ慇懃無礼ですが、その手法は「中学生のイジメ」並み、私は、打たれっぱなしのサンドバッグ状態だったことがよくわかります。これが、1時間40分続きます。

## 人格攻撃

最初は、私への「人格攻撃」でした。

あなたはあの時こう言った、あなたはこんな態度をとった、あなたには心がない、あなたは挨拶もない、あなたには問題がある……と、私の言動を、これでもかこれでもかときおろしました。身に覚えのないことばかりでした。

私は人様に媚びへつらうのは極めて苦手な人間です。私のアタマは平等が身上の北欧にかぶれていますから、国会議員がワンランク上の人種だなんて夢にも思いません。松浦議員やその周辺の人たちが期待するような、これ見よがしの畏敬の念を松浦議員などに示さなかったのは、指摘された通りだと思います。

## 「票の買収だ、家宅捜査だ、みんな終わりだ」

人格攻撃の次は、私や私の友人たちの「選挙違反のかずかず」の開陳です。

日本の公職選挙法には、実につまらない禁止条項がたくさんあります。正直申して、何が選挙違反に該当するのか、私もほとんどわかっていません。

私は、選挙中ずっと選挙カーと一緒に運動をすることになる、いわば“身内”のウグイス嬢に、ノルウェーの男女平等社会をレポートした自著を贈呈することを思いつきました。衆院候補者になった私を知ってもらうには、これが一番です。お1人ずつに、その方の名前と自分のサインを入れて手渡しました。

ところが、これが「票の買収」になるおそれがある、と、松浦ファミリーの面々は言い募るのです。松浦議員の秘書Bは、買収罪に問われないようにと、ウグイス嬢から本を回収してあげた、とオタメゴカシを言う始末です。

そう言われると、こちらも自信がありません。私の不安げな表情があらわになったのでしょう、小原県議が言います。

「とにかくみんな連座制だから、結局みんな捕まることはないにせよ、しょつ

ぴかれますからね。松浦さんがしょっぴかれたって話になったら目も当てられない」

さらに私が、友人たちとのメーリングリストを不適切に使用しただの、アルバイト代を払ったかもしれない人から領収書もらってないようだったの、後援会会計に用途不明金10万円があったが「票の買収」に使われたのでなければよいが、〇〇さんにバイト代支払ってないか……などなど、「選挙違反の恐れ」がてんこ盛りで述べ立てられます。

遊説で精いっぱいだった私は、初めて聞く話におタオタするばかり。すると、小原県議は、「怖いな。知らないでやっても駄目ですからね」「本当それはやばい」「あー、最悪だ、これは」などと責めます。

松浦議員も、「選挙違反です」「これから家宅捜査だからね」「知らないでは済まない」「連座制だ」と、たびたび合いの手を入れます。

あげくは、こんな発言になります。

小原 いや、おつかねー。

三井 ちょっと、ちょっと待ってください。

松浦 選挙違反だ。本当に、しゃれにならないよ。

小原 しゃれになんねえつう……。

松浦 票の買収ですもの。

……………(中略)……………

小原 やばい。結構そうなる……な。かなりやばいっすよ。

松浦 で、知らなくて……、知らなかったって通らないから。

三井 ええ、それはすまない……

松浦 結果責任だからね。

小原 通らない。

松浦 これでやっちゃってるんだから。

小原 こればかりは、全く通らない。

松浦 かなりの選挙違反ですね。今、挙げただけでも。ほかにないですか。

小原 お金の面だけは本当に……。

松浦 後から出てきたじゃ済まされない話だから。

小原 絶対これはきちっとやりましょう。でねばもう……。

松浦 終わりですよ。

小原 そうそう。本当に終わりだ。みんな終わりだ。あーあ。

## 「12月いっぱい」

終幕は「秋田追放宣告」でした。

1人である時に5人が突然、約束もなく、闖入してきたこと自体、闖入された者にとって恐怖以外のなにものでもありません。私は5匹の狼に囲まれた羊のようなものです。英語でVulnerabilityといますが、集中攻撃を受けて心身ともに弱りはてた状態です。

そこに容赦なく宣告がくだされます。

「電話をかけてくるな」「今後は一切関わるな」「12月いっぱいで見切りをつけろ」「借家に関してはIさんを通じて知らせる」「選挙違反にはその時点で対応する」といった内容でした。

その部分を録音の反訳通りに掲げます。

**小原** みんな、ちょっと、不安を抱えたままのあれですけど、まず、あとだいたいいいですか。代表とか。

**松浦** うん、だからもう、本当に電話をかけてこないでください。もうここまでですので、私たちが応援するのは。で、今後は一切関わらないということですので、よろしく願いいたします。

**小原** 事務所とかを、じゃあ、まず、閉めるときのそういう手続きであるとか、そういうときにはこっちから連絡するっていうことですか。でいいですか。

**秘書A** そうですね。うんうんうん、そうですね。

**小原** まずIさんと話して、Iさんの雇用とか、結局この家賃、引越して、例えばここを、きれいにして返して……とかっていう話の中では、それはIさんと通してっていうことでいいですか、代表。

**松浦** はい。

**小原** じゃあ、ちょっと……。

**秘書A** じゃあ、そこまでは……。

**松浦** まあ、12月いっぱい。だから、ええ。

**小原** ま、ちょっと12月いっぱい、いろいろ動きを、もう見切りをつけるということで…、そこまではもしかすると、ちょっとだけやりとりがあるかもしれねえけれども、まず、いろいろな今までのようなこの全てって……。こう、頼んでっていうこととか、含めてはなしということで、何とかお願いします。

松浦 そうですね。じゃあ残念ですけども、よろしく願いいたします。

小原 いいですか。

三井 いやあ、申し上げたいことはありますけれども……。はー（ため息）。

（約20秒間発話なし）

松浦 選挙違反のことが今後出てくれば、それはそのときに対応するということでもいいんじゃないでしょうか。

小原 うん、そうですね。

松浦 はい。そいじゃあ、ありがとうございました。

その夜は、衝撃的出来事を反芻したり、事務所兼我が家の前に広がる大雪原の闇を窓から眺めたりしているうちに、朝を迎えてしまいました。

ああ、これで秋田での政治活動は続けられなくなる、と漠然と思いました。

こうして、私は秋田を去る決心をしました。

## 政党交付金については一言もなし

さて、肝心の政党交付金にかかわることについてはどうだったか。

反訳を読み返してみると、私名義の口座に下りたはずの2000万円については、誰も一言も触れていません。

政治資金にかかわる発言としては、秘書Aの「もう1個口座をつくんなきゃいけないので、身分証明書を一度お借りすることになるかもしれないです。それくらいですかね」と、小原県議の「もう、松浦さんたちも、もう手を引いて、あとはもう会計だけやるってもう決めてます、われわれも」、という2つの発言だけでした。

その発言が、どれほど大きな問題をはらんでいるのか、この日の私には、まだわかりませんでした。



▲2012年12月、衆院選秋田3区の掲示版。支援者が家から雪かき器を持ってきて雪をどかしてくれた。すると三井ポスターが現れた。左上から右下へ、佐藤（共産党）、みのり川（自民党）、村岡（日本維新の会）、京野（未来の党）、三井（民主党）。みのり川が予想通り圧勝した。